

2014/7/1 05:30

神戸新聞NEXT

トマト温室の蓄熱装置で節約 燃料費26%減少 加西



温室の壁際に設けられた蓄熱装置「エネバンク」のカプセルに触れる岡田農産の岡田毅さん=加西市下宮木町

[拡大](#)

兵庫県加西市で、トマト栽培の温室に導入された蓄熱装置が、冬場の燃料代節約に効果的として注目されている。装置の中に入れた特殊な化合物が、昼間の室内の熱を吸収して蓄え、気温が下がる夕方以降に放出する仕組み。県立農業水産技術総合センター（同市別府町）の実証試験では、約26%の燃料費節減効果があったという。

蓄熱装置は、ヤノ技研（宝塚市）が開発。「エネバンク」と呼ばれ、1枚約882平方センチ、厚さ約2・7センチのカプセルの中に、特殊な化合物の蓄熱材を

詰めている。

導入したのは、岡田農産（加西市下宮木町）の温室約260平方メートル。エネバンク512枚を壁際につるした。同センターが岡田農産の温室のデータを調べたところ、1日平均の燃油使用量は約13・1リットルに。蓄熱装置を使わない場合の約16・7リットルから抑えられたという。温室を管理する経営者の岡田毅さんは「冬場の燃料代をいかに安く抑えるかが重要なので、効果があり助かった」と話す。

ただ、エネバンク1枚は重さ約2・5キロで「設置する際などの負担が大きかった」（岡田さん）といい、同技研はほぼ半分の大きさで重さ約1・3キロの新タイプを開発。1月からこのタイプにつるし替え、実証試験をしているという。

設定温度は化合物の配合で調整でき、県内外のミカンやイチゴ、カーネーション、洋ランの温室でも使われているという。同技研の矢野直達社長は「加西で育てられてきたエネバンクで、燃料費の高騰に苦しむ農家の助けになれば」としている。

ヤノ技研神戸ラボ TEL 078・891・8225

（河尻 悟）